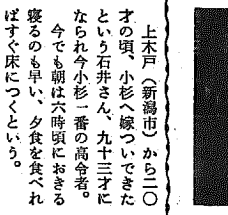
いつまでもながいきを
660名を祝う敬老会
―小杉部落でも盛大に―

九月十五日、各部落、及び分館主催など、村内の五ヶ所で敬老会が行なわれました。

今、七〇才以上の高令者は六六〇名おられます。そのうち今回は、小杉部落のようすと、小杉一の高令者、石井ミチさんを簡単に紹介しましょう。

小杉は、藤山、駒込、三部落が一緒にやりました。会場は旧小杉小学校です。ほとんどの人達が家族の自家用車で送られてきます。自ら自転車に乗ってこられる元気のよい人も何人かおられます。七〇才以上の該当者のうち、今回は約八十名の人が出席されました。まず代表区長の中川さんが「明治、大正、昭和の三代にわたる激動の中を、苦労され、今日まで世の中の為に働いてこられ、平和な社会を作ってくださいました。厚くお礼申し上げます。これからみなさんの苦労に報いるために敬老会を行いますが、一日どうぞゆっくりと楽しんでいってください」と、今迄の活躍に感謝の意を表しました。



次に、今年金婚式をむかえられた鈴木康太郎、阿部松次郎、鈴木丹司さん等の三夫婦に県から記念品が送られました。

又、八十八才の石井ミチ、残間シイ、皆川キテ、坂上ツギノ、中川ミテさん等五人には、村の社会福祉協議会より座布団と、金一封が送られました。

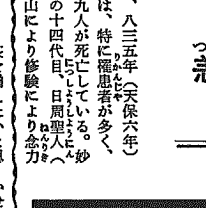
又、八〇才の残間トイ、石川伝一郎、阿部スイ、皆川要作さん等四人には、小杉地区から湯呑が送られ、参加者全員には村からお菓子が送られました。

次に、来賓の助役さん、村福祉協議会長、議員の代表者、又教育委員からそれぞれ祝辞をいただきました。

そして最後に高令者を代表して阿部松次郎さんが謝辞を述べられました。お昼頃、待っていた宴会です。お互に、酒やジュースを酌み交し、近所のあねさや、お母ちゃん達（上の婦人会）の舞踊をみながら若い時に思い走らせ、今日出席できてよかった来年もぜひやってほしい等、言っておられました。

秋のいそがしい一日、分館役員や学区の婦人会の協力を得て無事終ることができ、閉会のあいさつを藤山区長、田村忠雄さんが述べられすべての日程を終りました。

（写真は都合により、すべて大字横越のものをのせました。ご了承下さい）



記念品に感謝をこめて

小杉一の高令者
石井ミチさん（93才）

明治16年2月10日生

上木戸（新潟市）から二〇才の頃、小杉へ嫁ついできたという石井さん、九十三才になられ今小杉一番の高令者。

今でも朝は六時頃におきる寝るのも早い、夕食を食べればすぐ床につくという。

二、三年前のどを悪くして三食ともおかゆ、それも茶わんで人盛いっぱい、好物は魚、川・海のものを問わない、三食ともすべて一品は魚をつけてもらうという。

一番の楽しみは、子供や孫達が来てくれることだそうだ子供は四人産んだが、末っ子は小さい時死んだ。三人の子供は近くにいる。孫は十二人いるという。

ここまでなが生できたのは若い頃から「あまり心配ごとがなかった」ことだそうだ。医者もほとんどかからないという。今は耳が遠くなったのが不自由くらい。

でも二〇数年前、夫に先だたれた時はショックでもうすぐ自分も死ぬ等と口ばしり、家族を心配させたという。今は毎日玄関の近くで、陽をあびながら子供や孫達の来るのを楽しみにしているということでした。

尚、二木木上で一番高令者、佐藤トシさん（93才）最近体を悪くし床にふせっている。恢復したら、ぜひご登場していただきたい。

文化団体紹介 ⑤
横越民踊くらぶ
主力は青年会時代の人達

昭和十九年頃どこの村においても、地域青年の芸能活動は盛んでした。夜を徹して練習し、その成果を村民に披露するという今流の発表会は、青年は勿論のこと、娯楽の少なかった、村民にとっても大きな楽しみの一つでした。そして踊る人と見る人が一体となって、村人と青年の深いつながりができていたのです。

この頃、よく踊っていたという昔の乙女も、それ〴〵結婚し、子供も大きくなり手もかからなくなりました。このへんで若い時習った者同志がグループでも作って、ということで、六、七年前にこのクラブができたのです。

現在会員は二〇名余で、月に四回公民館で練習しています。今、古城、新潟小唄を習っていますが、少し練習をすればすぐ踊れるというのは、ようやく二〇曲あまりです。

幸い此頃〝お座敷〟がかゝって和気あい〳〵の反省会です。長潟、曽川、早通、亀田の方々が集ってきます。

今迄は、ただ漠然とやってきましたが、最近他部落からの仲間が入ってきました。これから練習を更に充実させ、踊りにかせないレコードの操作等もうまくできるよう出演効果を高める技術も身につけたいと考えています。

若い人も、年輩の方も、ぜひ踊ってみたい、こういう人がおられましたらぜひおいでください。連絡をお待ちしています。（会長、横越中部落石井チイ　☎㊗二六一二）

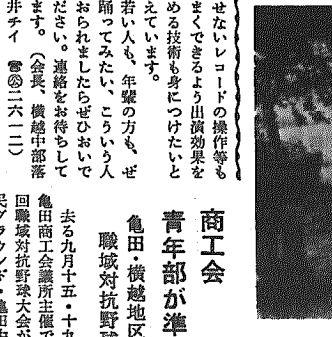
新しい文化財のおしらせ ②
恙虫の守神、七面様
〔沢海下〕

沢海村は恙虫病の中心地で太古の昔から夏になると、恙虫病による高熱から、死の恐怖に人々は苦しめられて恙虫からの安全は悲願であった。

一、八三五年（天保六年）の夏は、特に罹患者が多く、男女九人が死亡している。妙泰寺の十四代目、日周聖人（にちしゅうしょうにん）が七面山により修験により念力を得た安政五年没）は、天保七年の夏、村内法華宗信徒の勧請を受け、恙虫最多発地点で、妙法蓮華経による救護の大誓願を行った。

その効ありて、この年の死亡は無く、法華宗信徒一同はこの御利益（ごりやく）に歓喜し、天保九年恙虫鎮守大明神を弁天島（㊗現地点の南西百米の堤外地）に奉祀した。

御本尊は、木彫の吉祥天女（きちじょうてんにょ）で、日周聖人が与えたものである。



静かなにひっそりと立つ叢祠（ほこら）
（㊗現地点は、沢海下、島原正夫氏宅の脇です。）

商工会
青年部が準優勝
亀田・横越地区
職域対抗野球大会

去る九月十五・十九の両日亀田商工会議所主催で第十六回職域対抗野球大会が亀田町民グラウンド・沢海球場の三会場で開催されました。亀田町より十七チーム、横越村からは五チーム、合せて二十二チームが参加し、横越村商工会青年部チームが善戦、決勝で敗れはしましたが、結成二年目で準優勝の成績を挙げました。

特に一回戦では自慢の三割打線が爆発、六江山商工振興会青年部に対し、二十八対四で五回コールドで圧勝しました。

華々決勝、準決勝も完勝、決勝戦には昨年の覇者亀田製菓Bチームと対戦し、一時は一点のリードを奮いにヒッとしたら（笑礼）優勝するのではと応援席も熱が入りましたが、六回表に三点を許し、逆転され惜しくも準優勝となりました。

決勝

亀田製菓B	10100030	5
横越村商工会青年部	00012003	3

庭園案内

この庭は四～五代（精二さんは七代目）の人が作ったと云われ百年はたっています。いままで草やぶでしたが、四十一年に父が死んで母がさびしがっているので、四十三年に母が草むしりや、茶のみ話し等で人が来てくれるようにと「母のために手入れ」したのが今の庭です。昔から残っているのは松だけです。

お詫び

先月号「横中バスケット県大会で優勝」欄中、石垣（ひ）とある は石塀（ひ）の誤りでした。又「文化財のおしらせ」欄中、なかみだし、鋳山七面様は、鋳肉、鋳牛様の誤りでした。それ〴〵お詫びして訂正します。

商工会よりおしらせ

過日、全戸に配付いたしました「横越村商店街電話番号簿」のうち二本木・今井建設(株)の番号が次の通りとなりますのでお詫びして訂正いたします。

電話番号　㈱五一一五
有線番号　二九五〇

第八回亀田・横越柔剣道大会

㊀期日　十月二十四日九時
㊁会場　横小体育館
㊂種目　柔道・剣道
小学生、中学生、一般（高校も含む）団体、個人戦を実施
主催　横越村教育委員会
〃　体育協会
〃　柔剣道連盟